

2026年3月16日  
みずほ証券株式会社

## グリーン/トランジション製品の購入企業が利用可能な 販売促進型フレームワーク策定支援について

みずほ証券株式会社（取締役社長：浜本 吉郎、以下「みずほ証券」）は、ストラクチャリング・エージェントとして、川崎重工業株式会社（代表取締役社長：橋本康彦、以下「川崎重工業」）の資金調達用フレームワークと、川崎重工業のグリーン/トランジション製品を購入した企業（以下「販売先」）が資金調達に利用可能な販売促進型フレームワーク（以下「本フレームワーク」）の2つから構成されるサステナブルファイナンスフレームワークの策定支援を行いました。本フレームワークは世界初<sup>1</sup>のスキームで、本フレームワークを活用することで販売先が製品購入のための資金調達の際に、新たにフレームワークを策定することなくサステナブルファイナンスの実行が可能となります。

川崎重工業は、Scope3のカーボンニュートラル目標として、「水素化」「電動化」「グリーン電力網」「代替燃料」「CCUS<sup>2</sup>」をキーワードに製品・サービスの脱炭素化を進め、2040年には「Zero-Carbon Ready」（同社の脱炭素ソリューションをお客さまに選択していただける状態）をめざしており、2049年度までにバリューチェーン全体の温室効果ガス排出量のネットゼロ（NET-ZERO）達成を目標とするSBT<sup>3</sup>認証も取得しています。

2050年カーボンニュートラルに向けて、Scope3<sup>4</sup>削減、GX<sup>5</sup>やトランジションの中堅・中小企業への普及、グリーン/トランジション製品の市場拡大が社会課題として認識されています。本フレームワークは販売先の事務負担等を抑え機動的にトランジション資金の調達を可能にし、Scope3削減をめざす川崎重工業、Scope1<sup>6</sup>、Scope2<sup>7</sup>の削減をめざす販売先、企業の脱炭素を支援する金融機関の取り組みを後押しし、トランジションの好循環を導きます。

みずほ証券は、SDGs債のストラクチャリングや引受業務の推進に留まらず、困難な社会課題に対しても新たな解決策を模索し、「Sustainable BX<sup>8</sup> Partner」として、お客さまのサステナビリティ経営高度化・ビジネストランスフォーメーション（事業変革・事業構造再構築）戦略実行も後押しし、社会全体のサステナビリティ向上に貢献します。

# NEWS RELEASE

(ご参考)

川崎重工業：川崎重工業のフレームワーク体制

<https://www.khi.co.jp/ir/finance/framework.html>

みずほ証券：Sustainable BX Partner

<https://www.mizuho-sc.com/lp/sustainability/index.html>

以上

---

<sup>1</sup> 当社調べ

<sup>2</sup> Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage (CCUS)：二酸化炭素を回収・利用・貯留する技術

<sup>3</sup> Science Based Targets (SBT)：パリ協定が求める基準と整合した、企業が設定する温室効果ガス排出削減目標

<sup>4</sup> Scope3：Scope1、Scope2 以外の温室効果ガスの間接排出（事業者の活動に関連する他社の温室効果ガスの排出）

<sup>5</sup> GX：グリーン・トランスフォーメーション

<sup>6</sup> Scope1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出

<sup>7</sup> Scope2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う温室効果ガスの間接排出

<sup>8</sup> BX：ビジネス・トランスフォーメーション

ともに挑む。ともに実る。

**MIZUHO**